

八潮市立資料館編『れきナビーやしお歴史事典』

『新編武蔵風土記稿』にみる近世寺社一覧表(八潮市域村々と立野堀村)

凡例

- ・史料の記載順に掲げた。
- ・漢字は、村名を除いて、現在の正式な表記に関わらず、旧字体を新字体に直した。
- ・境内社や境内堂は太字で示した。

村名	寺社名	記事
八條村	氷川久伊豆八幡合社	村の鎮守とす、清蔵院持なり、 <b>末社 弁天 天神 稻荷</b>
	八條殿社	塚上に社を建、内に神体とて古碑二基を置、一は弘安七年(1284)、一は応安四年(1371)五月廿七日宗源禪門と彫れり(中略)塚上を平げし所より、石槨の著し様、古墳なること知らる
	浅間社	西勝院持
	第六天社	正光院持
	久伊豆社	(正光院持)
	稻荷社	村民持
	西勝院	新義真言宗、葛飾郡高久村密蔵院末、鶏羅山浄楽寺と号す、慶安元年(1648)寺領十五石を附せらる、本尊不動を安置せり、 <b>聖天社 稻荷社 寮</b> 不動を安ず
	大経寺	浄土宗にて古は京都知恩院末なりしが、後下総国小金東漸寺の末となれり、無量山浄光院と号す、慶安元年(1648)寺領七石を賜ふ、開山曉翁慶長十二年(1607)九月九日寂す、開基は関根兵吾と云、其子孫今も村民にあり(中略)本尊は阿弥陀を安置す、 <b>稻荷社 観音堂</b> 観音は坐像にて、長七尺五寸許、高雄文覚の作と云
	持昌院	禪宗曹洞派、足立郡安行村金剛院末、中島山と号す、開山は本寺二世充秀なり、永禄十年(1567)正月六日寂す、後旗下の士戸田五助が母、当寺を再興せしかば、これを中興開基とす、寛延三年(1750)四月十二日卒せり、 <b>弁財天社</b> 神体は古へ古利根川より、出現せしと云縁起あれど、採用すべきことなし、 <b>稻荷社</b>
	清蔵院	西勝院の末なり(中略)白幡山と号す、本尊大日を置、此寺もと村民五左衛門が屋敷内にありし庵なりしを、後に一寺となせり
	正光院	(西勝院末)本尊阿弥陀を置
	正蔵院	(西勝院末)地蔵を本尊とす
	前法寺	大経寺末なり、護国山安楽院と号す、天正三年(1575)の草創にて、開山山心慶長三年(1598)五月二十日寂、本尊地蔵を安ず、 <b>稻荷社</b>
薬師堂	正蔵院持	
観音堂	西勝院持	
正海庵	羽黒行人派の修験なり、鶴ヶ曾根村宝性寺配下、本尊大日	
鶴ヶ曾根村	久伊豆社	村の鎮守なり、薬王寺の持(後略)
	天神社	(薬王寺持)
	愛宕社	宝性寺の持
	第六天社	宝幢寺の持
	医王寺	新義真言宗、八條村西勝院末、瑠璃山地蔵院と号す、本尊薬師を安ぜり、開山は大永元年(1521)遷化せりといへど其名を伝へず
	宝幢寺	同宗(新義真言宗)、足立郡元木村吉祥院末、本尊正観音を安ず、天文三年(1534)の起立とのみ伝へり、 <b>鐘楼</b> 享保五年(1745)鑄造の鐘をかく、 <b>観音堂</b> 今廢れて再建せず、久伊豆社
	薬王寺	これも西勝院門徒、医王山と号す。本尊は薬師 <b>太子堂</b>
	法性寺	羽黒行人派、江戸日本橋音羽町普門院末、金剛山と号す、大日を本尊とせり、天正元年(1573)の起立とのみいひつたへり
	閻魔堂	(医王寺の持)
	虚空蔵堂	医王寺の持
二町目村	氷川久伊豆合社	村の鎮守にて、村持
	稻荷社	普門院の持
	神明社	西蓮寺の持
	西蓮寺	浄土宗、下総国小金東漸寺末、妙好山葵華院と号す、本尊は阿弥陀を安置せり、開山宗譽元龜元年(1570)示寂す、 <b>弁天社</b>
	普門院	新義真言宗、葛飾郡彦成村円明院の末、弘誓山と号す、不動を本尊とせり、 <b>山王社</b>
	来迎寺	浄土宗、西蓮寺の末、親縁山引接院と云、本尊弥陀
	本泉寺	日蓮宗、下総国平賀村本土寺末、妙福山と号す、本尊は三宝を安ぜり、開山日休寂年を伝へず <b>稻荷社</b>
木曾根村	八幡社	村民の持なり
	普門寺	新義真言宗、葛飾郡彦成村円明院末(中略)大悲山観音院と号す、本尊は不動をおけり、開山大雲慶長三年(1598)九月十五日示寂す、 <b>鐘楼</b> 明和四年(1767)鑄造の鐘を掛、 <b>観音堂</b>

八潮市立資料館編『れきナビーやしお歴史事典』

	金蔵院	(円明院末)光林山と号す、不動を本尊とせり、開山遊存正保元年(1644)四月廿日寂す、 <b>氷川社</b> 村の鎮守なり
	正福寺	(円明院末)本尊薬師を安ず、古は寮なりしが、近来一寺となれりと云 <b>稲荷社</b>
	明王寺	(円明院末)こゝも近来一寺となれりと、本尊不動
	地藏堂	村持
	観音堂	(村持)
	不動堂	普門寺の持
川崎村	稲荷社	村の鎮守。円楽寺持
	山王社	(円楽寺持)
	専称寺	浄土宗、二町目村西蓮寺末、信明山阿弥陀院と号す、本尊阿弥陀を安ぜり、開山乗誉元和八年(1622)十一月十一日寂す
	円楽寺	天台宗。江戸浅草寺門徒、供養山と号す、大日を本尊とせり
伊勢野村	天神社	村の鎮守なり、光明寺の持
	神明社	村民の持なり
	光明寺	新義真言宗、葛飾郡金町村金蓮院門徒、霊水山淨静院と号す、開山祐栄万治三年(1660)示寂す、本尊阿弥陀
	専修庵	釈迦を安ず、村民持
大瀬村	氷川社	村の鎮守なり、宝光寺持 <b>末社 稲荷</b>
	浅間社	(宝光寺持)末社 <b>天神 弁天</b>
	弁天社	村民持
	宝光寺	新義真言宗、葛飾郡金町村金蓮院の末、大中山青竜院と号す、本尊大日を安ず
	法積院	同じ門徒(金蓮院末)、本尊薬師を安置せり
	自性院	是も同門徒(金蓮院末)、薬師を本尊とす、此二ヶ寺皆小寺にて、山号・寺号もなく、庵と齊しきものなり
	延命院	新義真言宗、葛飾郡小松村正福寺の門徒、本尊延命地藏を安ず
	観音堂	村民の持
	大日堂	(村民持)
古新田	稲荷社	福蔵院持、村の鎮守とす
	天神社	(福蔵院持)
	福蔵院	新義真言宗、葛飾郡金町村金蓮院末、薬王山最勝寺と号す、本尊弥陀、立像長三尺余、春日の作と云、法流開祖伝灯宝曆年中(1751~64年)示寂とのみへ、其余のことは詳ならず、 <b>薬師堂</b>
垢村	稲荷社	村の鎮守にて、浮塚村大聖寺の持なり
	常念寺	浄土宗、下総国小金東漸寺の末、建立山無辺院と号す、開山白雲、寛永十六年(1639)八月十六日示寂す、本尊阿弥陀なり <b>弁天社</b>
浮塚村	氷川社	村の鎮守なり、大正・長泉両寺の持なり <b>末社 稲荷社</b>
	大正寺	新義真言宗、足立郡西新井村総持寺の末、浮塚山と号す、本尊弥陀なり
	長泉寺	同宗(新義真言宗)、八條村西勝院門徒、不動を本尊となせり
大原村	稲荷社	村の鎮守にて、円照寺の持 <b>末社 天神 金毘羅 三峰</b>
	円照寺	新義真言宗、八條村西勝院末、大原山長宗院と号す、本尊大日を安ず
大曾根村	八幡社	村の鎮守なり、福寿院持、土人の口碑に、昔は末社の稲荷を以て鎮守とせしが、元龜二年(1571)甲冑せし八幡の像を勧請して鎮守とせり、其後延宝二年(1674)地頭森川撰津守重房、新に束帯の八幡を勧請して、元の像は福寿院に安ずといふ、 <b>末社 稲荷 天神</b>
	福寿院	新義真言宗、八條村西勝院末、光林山満蔵寺と号す、本尊弥陀を安ぜり、行基の作、是は鎮守八幡の本地仏にして、地頭森川氏の家人根塚善左衛門定武と云者、奉納せし由、坐像にて長一尺五寸許 <b>観音堂</b> 元文四年(1739)三月地頭より起立せり、信州更級郡初瀬寺の写しなりとて、初瀬堂と号せり <b>太子堂</b>
	蓮台寺	同宗(新義真言宗)、柿木村東漸院門徒、本尊不動を安ず、元柿木村の民開基して、纒の庵なりしが、彼村の廢寺号を以て此庵に移して、今の寺号となせりといふ、 <b>観音堂</b> 正観音なり
	庵	浄土律宗、荏原郡中目黒村長泉院持、本尊地藏を安置せり
大曾根新田	(なし)	
上馬場村	天神社	村の鎮守なり、 <b>観音寺</b> の持 <b>末社 稲荷社</b>
	観音寺	八條村西勝院末、新義真言宗にて、正保山と号す、阿弥陀を本尊とせり、開山秀善、天和二年(1682)寂す、 <b>地藏堂</b>
中馬場村	諏訪社	村の鎮守なり、妙光寺の持、同寺に蔵する社伝あり、其略に信濃国の住人高梨監物仲光は(中略)こゝに社を建て、永く当初の鎮守とせり、これ延徳三年(1491)正月廿七日のことにして、後永禄年中(1558~70年)天照大神・八幡の二座を合祀せる由を載す(後略) <b>末社 稲荷社</b>
	山王社	上馬場村観音寺の持

八潮市立資料館編『れきナビーやしお歴史事典』

	妙光寺	日蓮宗、池上本門寺の末、長光山と号す、開山日正永正四年(1507)九月朔日寂せり、本尊三宝祖師、祖師は日朗の作にて五寸許の坐像なり、像の後ろに弘安五年(1282)九月廿五日迄造立法師日朗と記し、殊勝の尊体なり <b>稲荷社 弁天社</b>
	山王塚	村持
西袋村	氷川社	鎮守なり、蓮華寺持なり(中略) <b>末社 第六天 稲荷 氷川</b>
	稲荷社二宇	(蓮華寺持)
	山王社	(蓮華寺持カ)
	蓮華寺	新義真言宗、柿木村東漸院末、薬王山慧日院と号す、本尊不動を安ぜり、開山源忠寛文九年(1669)寂せり、 <b>薬師堂 八幡諏訪合社</b>
	正道庵	百観音を安ぜり、村民の持
柳之宮村	氷川社	鶴ヶ曾根村宝勝寺の持なり、 <b>末社 第六天 稲荷</b>
後谷村	八幡社	村の鎮守なり、西福寺の持(後略)
	山王社	(西福寺持)
	西福寺	新義真言宗、八條村西勝院門徒、善心山と号す、本尊不動中興の僧祐伝は、正保二年(1645)十月二十一日寂せり <b>天神社</b> 古き勧請なりといへど、其詳なることを知らず
小作田村	稲荷社	村の鎮守なり、華藏院の持
	立正寺	浄土宗、二町目村西蓮寺の末、無量山と号す、本尊阿弥陀を安ぜり
	長安寺	禅宗曹洞派、足立郡安行村金剛寺末、興福山と号す、本尊正観音を安ぜり、開山高安示寂の年月詳ならず <b>山王社</b>
松之木村	稲荷社	村の鎮守なり、勝運寺の持 <b>末社 弁天 天神</b>
	勝運寺	新義真言宗、柿木村東漸院門徒、 <b>牛頭天王社 観音堂</b> 正観音を安ぜり
立野堀村	稲荷社	村の鎮守なり、妙学院持(中略) <b>末社 疱瘡神</b>
	稲荷社	(妙学院持)
	第六天社	(妙学院持)
	天王社	慈尊院の持
	慈尊院	新義真言宗、別府村慈眼寺末、清滝山真福寺と号す、本尊大日を安ぜり、開山を秀長と云、寂年は失へり <b>観音堂</b> 正観音を安ぜり、 <b>地藏堂</b>
	妙学院	本山修験、葛飾郡幸手不動院配下、本尊不動を安ぜり、立像長一尺、智証の作なりと、開基は慶長八年(1603)と伝ふれど、其法号・示寂の年月を失へり <b>不動堂</b> 妙学院の持
伊草村	天神社	村の鎮守なり、円蔵院の持
	円蔵院	新義真言宗、柿木村東漸院門徒、本尊大日を安ぜり

出典 蘆田伊人編集校訂・根本誠二補訂『大日本地誌大系16 新編武蔵風土記稿 第10巻』(雄山閣、1996年)154～167ページ